

私は榎尾川ダム建設予定地のすぐ下の村であります大畑(おばたけ)町のダム対策委員会の委員長を務めております。意見陳述を申し上げますが、本当の地元の実態を申し上げます、各先生方のご支援のほどをお願い申し上げます、かように思っております。

私たちの村にダムの話が出ましてから10年がたちます。いろいろな問題もございましたが、最初は一応反対するのがいいんじゃないかという話から、反対の署名もとったことがございました。しかし、水害防止のための治水ダムには間違いがないということから、反対署名を撤回しまして、私たちの委員会が組織されてから5年たっております。この間、現地の予定地のすべての調査、そしてまた工事用の進入路の道路の測量、すべて大阪府の鳳土木の和泉工区の皆さん方、また和泉市の関係各位の方々のお力添えを得まして、全部完了しまして、これから用地の買収ということになりました。この時点で今止まっているわけでございます。5年間の歳月をかけたこの事業が止まっているということは、非常に私たちは不安がいっぱいでございます。なるべく早く推進のご努力をお願い申し上げます。

そしてまた、私たちの村には、最近の異常気象と申しますか、たびたびと激しい雨が降ります。その都度川べりに住む人たちが非常に水におびえまして、子どもたちもいつもそうした生活を重ねておるわけです。

先ほどからいろいろなお話を聞きましたが、榎尾川の水害の歴史も再三とございます。特に戦後、昭和27年には一昼夜ぶっ通し降った雨が洪水化しまして、川べりの家が流れ、また浸水し、みかん畑も、また稲作も全部水に倒されまして、無残な光景になりました。それ以後、大阪府のご尽力を得まして、約2km余りのS字型の川を直線にさせていただきまして、これで大丈夫だろうということでございましたが、やはり昭和57年には同じような水害を起こしました。特に最近の平成7年に降った雨は、1時間に40mmの雨が2時間降ったということです。先ほどお話のあった神田橋から上に約12の橋がありますが、多くの橋が、修復をせんとしょうがないという状態になりました。

先ほどもお話がございましたとおり、私は、100年に1回の大雨、また1時間に50mmの雨が2時間降ったならば洪水が起こるというようなお話で、ダムのお話が出てきたんですが、現に40mmの雨が2時間降って、我々には水害が起こっているんです。難しいことは私はわかりませんが、現実には地元でそういう状態でございます。どうか何とかしてこの事業を完成していただけないか、これが本当の私たちの願いであります。

特にまた、ダムのつくりにつきまして、先ほどうちの連合町会長からもお話がございましたが、あちこちの見学もいたしております。そしてまた、淡路島の三原町の成相ダムも見学しました。諭鶴羽(ゆづるは)ダムも見学しました。成相ダムの場合、1度目に行ったときは3割ぐらいできていました。2回目のときは8割方できておりました。これだけの頑丈なダムを榎尾川につくっていただくならば、まず安心だろうと。長い将来何の心配もなく我々は暮らせるだろうと。そしてまた、諭鶴羽ダムの方では、完成して15年、湖面はさておいて、私が痛感したことは、緑がどっさりと生え繁っておるということ。もし榎尾川につくって、たとえ地肌が見えたとしても、3年たち、5年たち、10年たったならば、すばらしい緑の場所ができるんじゃないか。私たちは確信を持っております。

なおまた、ダム直下に住む私たちには、榎尾山が本当に自分の庭のように、ワンパクなところから駆けずり回っております。どういう動物が生きておって、どういう鳥がおるとい

うことも十分に承知しておりますが、変わったものはありません。野ウサギとかリスとか平凡な動物ばかりでございます、ダムをつくるにおきまして何の障害もないんじゃないかと、かように存じております。

非常に下手な言葉でございます、申しわけないのでございますが、私たちは既に高齢でございますが、何とかこの村を平和で豊かに暮らせる村につくりたい。これが本当の願いでございますので、どうか今後ともよろしくご審議をくださいますようお願い申し上げます。本当に簡単でございますが、ご静聴ありがとうございました。